

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 6月 9日記入

基本目標	Ⅱ ▼ ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	21110
政策名 (章)	第1章 人と自然にやさしい地域社会をつくります	評価担当課	環境保全部 ▼
基本施策名 (節名)	第1節 地球環境の保全に向けた取り組み		環境対策課
施策名	総合的な環境施策の推進	課長名	佐藤 広

1 施策の概要・目的

複雑・多様化する環境問題への確に対応するため、環境保全活動や環境教育・環境学習の充実に努めるとともに、市民・事業者・行政が一体となって良好な環境の保全と創造に向けた総合的な施策を推進するもの。

2 施策の現状

平成13年3月に策定した「相模原市環境基本計画」に基づき「自然環境観察員制度」を創設し、市民自らが身近な動植物等について調査を実施し、環境保全意識の高揚を図るための事業を市民と行政との「協働」により実施しているほか、6月を「環境月間」とし、環境保全のための普及・啓発事業や環境保全団体との協働による普及・啓発事業などを実施。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

19,491 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

32 円/人……人口は、61.6 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 107 番目です。

(4) 施策に要している人員

1.14 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	【自然環境観察員登録数】 (当該年度観察員登録者数÷目標登録者数100人)×100	市域全域を網羅できる調査、「協働」による運営に必要な人数の確保。	81% 単位	0 50 100	81%	目標年度
			100% 単位		81%	毎年度 達成度
指標2	【子どもエコクラブ登録数】 (当該年度子どもエコクラブ登録数÷目標登録数50クラブ)×100	子供の環境保全意識の高揚を図るため、環境基本計画で設定した目標。	158% 単位	0 50 100	158%	目標年度
			100% 単位		158%	毎年度 達成度
指標3			単位	0 50 100		目標年度
			単位			達成度 %

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

総合的な環境施策を推進するためには、行政だけではなく市民・事業者と一体となった取組を進める必要があり、また、「協働」の観点からも市民・事業者との積極的な関わりを持つ必要がある。「自然環境観察員制度」については、制度の企画・運営を専門業者に委託していたものを廃止し、15年度からは観察員(=市民)が中心となって制度を運営する方式に改めるなど、時代の変化に対応した手法を取り入れ、総合的な環境施策の推進を図っている。

6 有効性…期待される効果があがっているか

「自然環境観察員制度」については、観察員から「市域の自然環境の現状を理解できた。」「環境保全に対する意識が強まった。」「観察員相互の交流が図られた。」などの声が寄せられ、調査結果については今後の施策の展開に十分活用できるものになっている。また、「こどもエコクラブ」の活動に参加した子供たちからも環境保全の大切さに関する素直な意見が多数寄せられ、総合的な環境施策の推進という観点から十分に有意義である。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

「自然環境観察員制度」における専門業者への委託の廃止、毎年作成する環境年次報告書の外部作成の廃止、保有車両の見直しなどにより、「最小の経費で、最大の効果(=総合的な環境保全施策の推進)」を上げるべく、改善を図っているところである。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

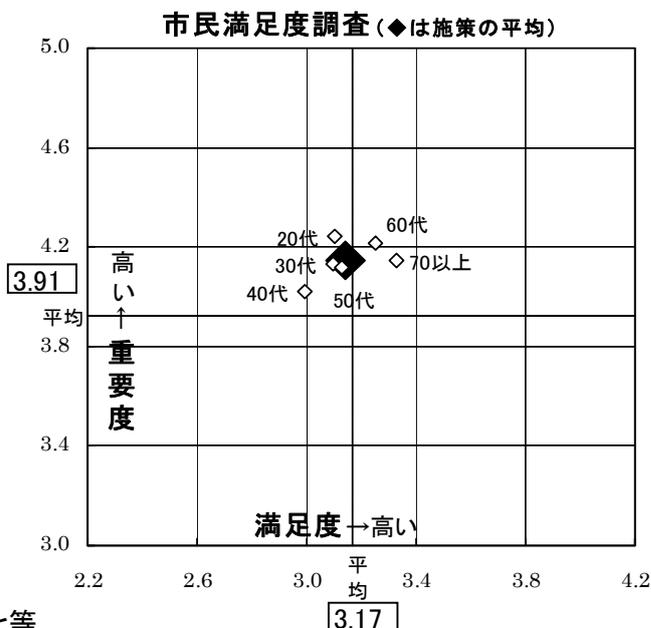
◆この施策の満足度は、3.144で、調査した51施策の中で27番目です。

◆この施策の重要度は、4.145で、調査した51施策の中で13番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.708で、調査した51施策の中で13番目です。

◇年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、40歳代で最も低くなっています。重要度は20歳代で最も高く、40歳代で最も低くなっています。年齢差はあまり大きくありません。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)



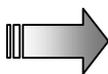
9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

総合的な環境施策の推進を図る上で、官民一体となった環境保全活動を展開している、市内の事業所等により組織されている「相模原の環境をよくする会」の事務局機能の強化・充実を図り、より一層の「協働」を推進する必要がある。

また、毎年6月の「環境月間」中に実施している「かんきょうフォーラム」については、著名人による講演会については見直しを図り、現在も実施しているこどもエコクラブや自然環境観察員による活動発表と、市民や事業者等により環境問題について議論する「シンポジウム」のような形態に改めることとし、今後、詳細について検討した上で、平成17年度からの実施を目指すこととする。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

総合的な環境施策を推進するためには、時代の変化や市民ニーズの変化等に迅速に対応する必要があるため、既存の事業に満足することなく積極的な事業展開を図る必要がある。中でも、既存の事業についてはスクラップアンドビルドを徹底し拡充・充実を努めるとともに、市民・事業者との「協働」による事業展開を一層進めることとする。

また、課題となっている事項についても、施策の推進を後退させることなく見直し等を行い、総合的な環境施策の推進に資するものとする。

11 2次評価

2次評価	説明
<input checked="" type="checkbox"/> A	市民の関心の高い施策であり、市民、事業者との協働のもと効果的な事業を選択し、推進していくこと。
<input type="checkbox"/> B	
<input type="checkbox"/> C	

12 外部意見

外部意見	説明
	市民・事業者とのパートナーシップにより事業を充実するとともに、積極的な情報提供に努める必要がある。

